

第 63 回 湘南科学史懇話会（2013 年 6 月 15 日（土）午後 2 時 30 分～6 時 00 分）

「辺境」をフィールドワークする—宮本常一と九学会連合の初期調査をめぐって—

講師：坂野 徹さん（科学史、日本大学経済学部教授）

●講演概要

敗戦後間もない 1947 年、日本人類学会・日本民族学協会・民間伝承の会（49 年より日本民俗学会）などのフィールドワーク系の諸学会が集まり、九学会連合という学術団体が結成された（当初は六学会連合）。九学会連合はその後、日本列島各地で計 11 回にのぼる共同調査を実施し、戦後日本の学术界に大きな足跡を残すが、本講演では、その初期調査の展開と、これらの共同調査に参加した宮本常一（民俗学者）をはじめとする研究者の足跡をたどる。目と鼻の先に位置する朝鮮半島で戦火が上がる状況下で実施された対馬調査（1950～51 年）、「調査地被害」の問題を引きおこした能登調査（1952～53 年）、日本復帰直後に行われた奄美調査（1955～57 年）の検討を通じて、「辺境」を対象としたフィールドワークの政治性について考えたい。近年、日本列島の周縁部で領土をめぐる緊張が高まっているが、本講演では、日本の「辺境」「周縁部」を対象とした学術調査の検討を通じて、「日本」「日本人」という枠組みが問い直されることになるだろう。

●講師プロフィール：

坂野 徹（さかの とおる）：1961 年東京都生まれ。1986 年九州大学理学部生物学科卒業、1994 年東京大学理学系研究科科学史・科学基礎論専攻単位取得退学、学術博士（東京大学）。現在、日本大学経済学部教授。著書『帝国日本と人類学者』（勁草書房、2005 年 4 月）、『フィールドワークの戦後史』（吉川弘文館、2012 年 12 月）、『昭和前期の科学思想史』（共著、勁草書房、2011 年 10 月）、『帝国の視角／死角』（共編著、青弓社、2010 年 12 月）、『人種の表象と社会的リアリティ』（共著、岩波書店、2009 年 5 月）ほか。

●日時：2013 年 6 月 15 日（土）午後 2 時 30 分～6 時 00 分

●会場：藤沢産業センター（藤沢 ND ビル）7 階 第 2 会議室

〒252-0052 藤沢市藤沢 109 番地（湘南 ND ビル 7 階）

電話 0466-21-3811 JR・小田急藤沢駅（北口）徒歩 2 分

<http://www.cityfujisawa.ne.jp/center.html>

●参加費：1,000 円

●連絡先：猪野修治（湘南科学史懇話会代表） 〒242-0023 大和市渋谷 3-4-1

TEL/FAX 046-269-8210 email [shujiino@js6.so-net.ne.jp](mailto:shujiino@js6.so-net.ne.jp)

湘南科学史懇話会 <http://www008.upp.so-net.ne.jp/shonan/home.htm>